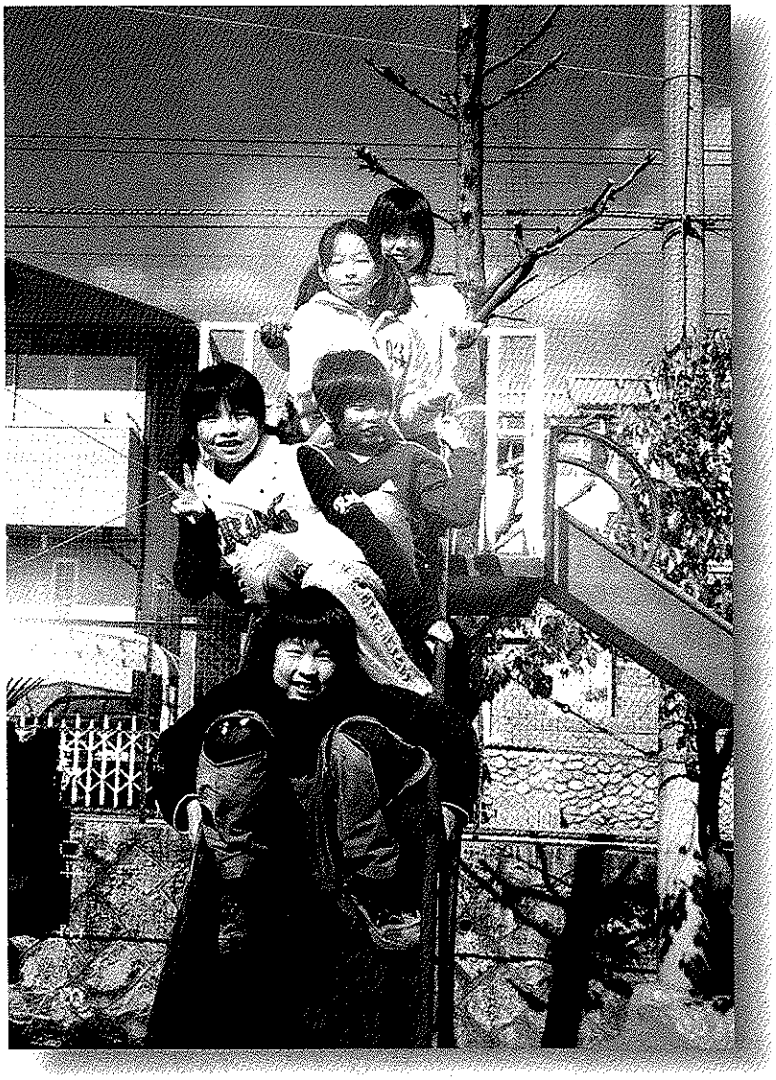
●人権教育推進会議情報誌●

はじけるこころ

vol. 7

人権の宝島・一中発
学力向上フロンティアスクール……1
こころの病と施設コンフリクト 1
こころの病について正しく知ることからはじめたい……3
こころの病と施設コンフリクト 2
みのお市内の精神障害者共同作業所生活支援センターMAP……5
東小学校6年生　平和カリキュラム紹介……7
タバコのケムリが、ぷかり、ぷかり かわのひでただ……9
ゆうからきいて！に応えて……11
「はじけるこころ」アンケート結果……13
人権教育基本方針解説……14
げんげののぺぇじ……15



みのおから世界へ！　人権文化の花束を！

「生徒の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を目指して」

～自尊感情の育成を図り、
学習意欲の継続のための支援の在り方を探る～

人権の宝島・一中発

学力向上フロンティアスクール

箕面市立第一中学校

学力フロンティアスクールとは

大阪府教育委員会及び箕面市教育委員会との連携・協力のもとで、理解や習熟の程度に応じた指導の実施等、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るための実践研究を推進し、その成果を府内のすべての学校に普及させることにより、新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上に資する。

理科

理科ばなれ克服！「わかる物理」に挑戦！
単純２分割　少人数　毎授業
少人数授業 ＋ 実験 ＋ プチ実験
プチ作業

○学校独自で行なった学力実態調査の結果から「光・音」「力・圧力」など達成度の低い物理領域をターゲットにとりくみました。
○校区の小学校や池田中学校（フロンティア校）との交流にとりくみました。

英語

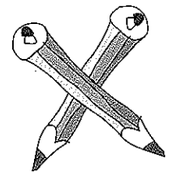
英語を使う場面がふえた！　自分の出番がふえた！

単純２分割少人数授業をＡＥＴ・ＪＥＴのTeam Teachingで

○入門期の１年生で毎月第１週～第３週で少人数授業
○英語にふれたり、使ったりする場面をふやすことで、自己表現力・コミュニケーション能力の向上を図っています。
○ＡＥＴは校区の２小学校にも出かけ、英語指導にあたっています。

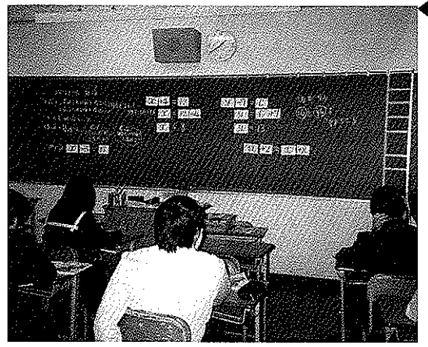
平成15年（2002年）11月12日の研究中間発表会で「数学・理科・英語」の授業を参観した人権教育推進会議委員の感想より

＊今の授業時間では足りないと言われていますが、子どもたちの実力にあわせて授業をしていただけるのは、子を持つ親としてすごくありがたいと思います。
この方法で、成績が上がれば言うことなしですね。
＊私が参加したクラスは、全体的に生徒がリラックスしていて楽しい授業でした。これからもいろいろな工夫をしていっていただけたらと思いました。
＊向かい合って座っていた理科は、実験中よく相談しながら結論を導き出していたようにみえました。数学は、自分たちの意志で班を作ってグループ学習をしていましたが、こちらはあまり議論せずに終わっていたようにみえました。
＊時間数が少なくなった分を、より理解を深め効率を高めるために、少人数クラスにするならば、単に形だけ少人数にするのではなく、教え方の工夫、生徒との意思疎通の密度up、生徒同志の関わりによる効果など、少人数という要素から生まれてくる要因を整理していってほしいと思いました。



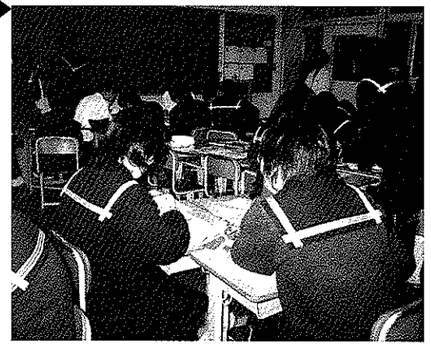
数学

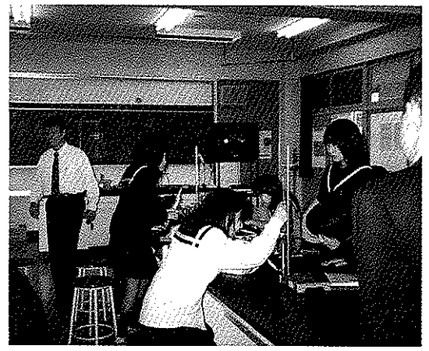
学ぶ意欲とわかる喜び
－習熟度別クラス編成による少人数授業－



少人数教室②
統一した進度の中で既習内容の基本事項を整理しながら問題演を少しゆっくりとりくむクラスクラス

少人数教室①
統一した進度の中で問題集や発展的な問題にもとりくむクラス





●習熟度別指導を導入する際の留意点
○授業の進度に差が生じないよう、毎時間授業後、綿密な打ち合わせ
○単元毎に希望のとり直し（クラス替え）

●こんな成果が
1．定期考査の習熟度がＵＰ！！
（クラス①は69%、クラス②は58%の生徒がＵＰ！）
2．この授業方法を続けてほしいという多くの声!!
（よかったという声85%、続けてほしいという声92%）

これこそまさに　個に応じたきめ細かな指導子どもたちを大切にした指導ですね！

●子どもたちの声
「自分にあった環境で勉強できる」〈数〉
「自分のペースで進んでとりくめる」〈数〉
「楽しく学習できる」〈数〉
「わからないところを質問しやすい」〈理〉
「集中できる」〈英〉
「自分の番がたくさんまわってくるし、一人ひとりをよく見てもらえる」〈英〉
「意見を言いやすい」「積極的になれる」〈英〉
「宿題チェックもすぐしてもらえる」〈英〉

特集記事　こころの病と施設コンフリクト ～その1～

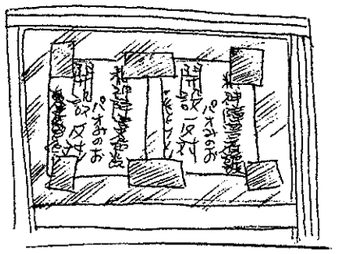
人権教育推進会議は2003年、箕面市内で起こった「パオみのお移転反対運動（施設コンフリクト）」を重大な人権侵害と受け止め、市内教職員に対して事実経過を正しく伝え、共に考え、共に行動できるよう、継続して特集を組むことになりました。

だからまず正しく知ることからはじめたい

"施設コンフリクト"とは―

各地で福祉施設を建設するときに、地元住民が反対運動をする現象をいい、いわゆる「人権摩擦」と呼ばれています。反対運動をする住民は施設を利用する人たち（今回の場合は精神障害者）とつき合った経験がなく、生活実態が見えないための偏見から、「違和感」「恐怖感」を感じ、隣人となることを拒否してしまう。法的には地元の理解を確認する同意書の義務もなく、障害者が地域で当たり前に暮らしていく権利は当然保障されるべきである。

▼窓ガラスに貼られたポスター



ご存じですか？

精神障害者施設が桜井１丁目に！

なぜ　住宅街

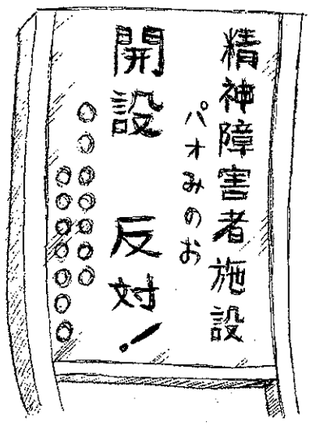
商店街のど真ん中に？

なぜ　市役所は隠し通さなければ

ならなかったのか？

▲各戸ポストに入れられていたチラシ

▼各戸に掲げられた反対看板（数十枚）

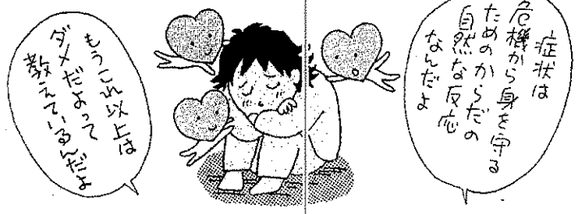


精神障害者生活支援センター「パオみのお」移転改装工事の矢先！

箕面市には作業所やグループホームなどいくつかの精神障害者のための社会資源（特集記事その2参照）があるが、その中の一つ、生活支援センター「パオみのお」が利用者の増加で手狭となり、移転先を探していたところ、桜井一丁目（駅前すぐ）によい物件が見つかり、契約し、改装工事に取りかかった直後の出来事だった。

2003年の2月、桜井に住む障害者市民からライフプラザの窓口の電話が鳴った。朝、ポストに入っていたチラシを見てショックで外に出れなくなったというものだった。

私たちも こころの病について 正しく知らなかった…



事実経過

2002年夏	精神障害者地域生活支援センターパオみのおは利用者の増加によって手狭になり、また、現在の外院の所在地が交通の便が不便であることから、利便性の高い物件を移転先として物色していた。
11月	桜井一丁目の物件について口頭にて事前協議
12月	移転先建物賃貸借契約締結。改装工事着手。
2003年	
1月	この改装工事が地元の不安を惹起していることが判明。パオは月末までに30軒に個別説明実施。以後、改装工事は中断
1月21日	地元5名、ライプラへ来庁。事前説明がなかったとか、事件が起きる心配、不特定多数市民の多い桜井は不適当などを理由に計画を白紙に戻すよう主張。
2月10日	移転反対ビラが配布されたことを確認。市は重大な人権侵害行為であると指摘、抗議。
3月24日	南小コミセンで移転説明会を開催。150名が参加。 この頃、予定建物が無届の建物であることが判明。家族会は違法状態を回復できないか家主を含め各方面と調整したが、最終的に移転を断念。家主を相手に訴訟を決定。
6月27日	地元の反対団体に対して市長名文書により、パオみのお移転反対看板類の撤去を要請。
7月1日	家族会は市長に対してパオみのお移転計画の顛末に係る説明と今後の啓発活動の強化について文書で要請。 この頃、桜井地域の看板類が一斉に撤去された。
7月22日	南小体育館において2回目の説明会を実施。150名の参加。
10月23日	南小コミセンにおいて家族会と地元有志との懇談が行われたが、和解にはいたらなかった。

何かあったら どうするんだ！

駅ビラ・署名活動・看板……と反対運動がどんどんエスカレートする中、市からは文面が事実に反すること、人権侵害にあたることを抗議し、三月に、南小コミセンで移転説明会を実施した。しかし、実際は説明会と言うより、ヤジと怒号の中で、市や家族会の声はかき消されるような会であった「何かあったらどうするんだと言われましたが、何かあるのは健常者も同じです。私たちは何もないと思って仕事をしています。」（パオの職員より）

予期せぬ出来事！ 移転を断念！

2003年三月下旬、予定建物が無届の建物であることが判明した。市としては適法な物件でないと事業の委託はできないが適法な建物にしようとすると、多額の費用が必要となるため、最終的に予定建物への移転は断念され、この計画は白紙に戻ったが、市としての課題は何ら解消されず、効果的なことは何もできなかったという反省が残った。

特集記事

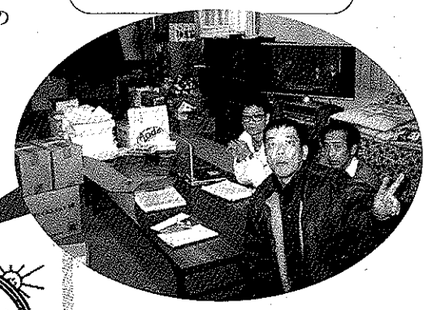
こころの病と
施設コンフリクト ～その2～

みのお市内の 精神障害者共同作業所 生活支援センター MAP

人権教育推進会議調査広報部会のメンバーで、市内の精神障害者施設の見学研修を実施しました。写真はいずれもそのときのスナップです。〈2004年1月9日・15日・16日・19日〉

「地域に開かれた、アート・カルチャースペース」をキャッチフレーズに平成９年に誕生した作業所**「あっとほーむ」**では、お弁当づくりや、デザートクラブ、パソコン教室や陶芸等、地域のボランティアさんに積極的に参加してもらいながら、各々が自分のやりたいことを見つけながら様々なとりくみをしています。また、日々バンドの練習を重ね、毎年開かれる「たそがれコンサート」で地域の方を招いてお披露目をしています。

いっしょにテレビを見たり　コーヒーをいれてもらったり…
「行ってきます」「ただいま」
「お帰りなさい」「ごちそうさま」
みんながあいさつを大事にしています（見学者の感想より）



平成元年に設立された作業所**「もみじの家」**では、笑い声の絶えない和気あいあいとした雰囲気の中で、小動物のエサの袋詰めをはじめとする軽作業や、ナイロンたわしなどの自主製品制作を行っています。また、自治会の公園清掃など、地域住民の一員として積極的に社会参加をしています。

平成１２年に開所した作業所**「シェスタ」**は、喫茶店の運営とケーキの販売を中心に活動しています。明るくきれいな店内での接客業務に加え、ケーキ・クッキーなどを市内の公共施設で販売したり、また、新しくできたカルフールのお店にも出荷しています。現在では、地域の方の常連さんも増え、貸し切りで使ってくださることもあり、地域住民との直接ふれあえる場所としての貴重な役割を担っています。

ボランティアのつもりが、今ではメンバーの方たちのひたむきさに励まされたり、優しさに慰められたり…（見学者の感想より）

笑顔の絶えない…
しかし、作業の手はとめないもみじの家でした

時間がゆったりと流れています。自分なりにそれぞれがリズムをつくれるようになっているのかな…（見学者の感想より）

新春恒例のパオみのお前　もちつき大会！この日は近所の小学生も来てくれました

「パオみのお」は平成１１年に開設された地域生活支援センターです。精神障害者の地域生活全般にわたる支援サービスや、地域交流事業が行われています。最近では、就労支援、ひきこもり対策などを積極的に行い、新たな活動が増えています。

〈はじけるこころ第８号につづく〉

東小学校６年生　平和カリキュラム紹介

総合的な学習 ヒロシマから世界へ

－EditTableを活用して－

（教諭：南山晃生、出田裕子、岡崎美喜子）

戦争は最大の人権侵害であるという立場から、絶えることなく繰り返される戦争、現在も多くの命が奪われ続けていることについて考えていこう！

【EditTableの構成】

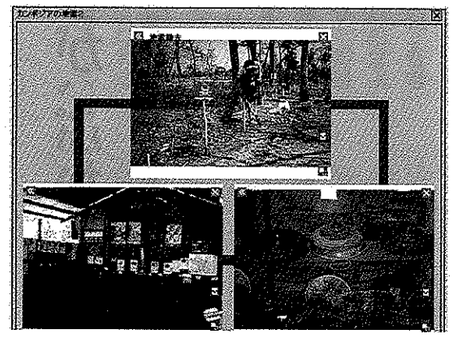
EditTable・「なっとくボード」の画面

学習のテーマ
1、ヒロシマ
2、世界の現実
3、わたしにできること

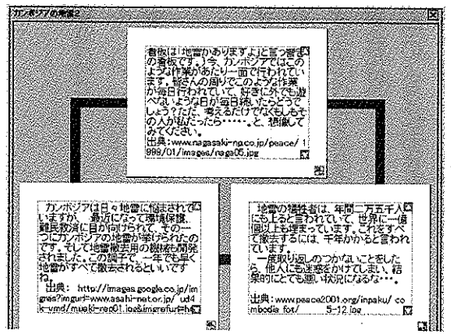
調べたり、考えたりしたことをカードにして「はっとくパレット」にはり整理していく。

それぞれのテーマについての学習の流れ

「はっとくパレット」の例（トリプルパレット）



表



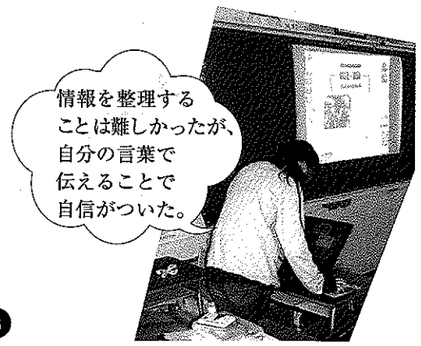
裏

【学習の流れ】

Ⅰ　「戦争から平和へ」（２学期ヒロシマ修学旅行）

ヒロシマで起こったことを見て、聞いて、調べて確かめる。

学習過程	学習活動	主な内容	備考
1、テーマをつくる	Web検索	平和記念資料館Webページ探検 「バーチャルミュージアム」 「21世紀サダコストーリー」	EditTableを使って情報をカード化して蓄える
	VTR	VTR視聴 「折鶴」 「ヒロシマに一番電車が走った」 「夏服の少女」	感想や考えをまとめる
2、調べる・学ぶ	VTR	ヒロシマでフィールドワーク 「見学」 （資料館・原爆ドーム・その他慰霊碑等） 「語り部の方から聞き取り」	デジタルカメラメモ
	Web検索	インターネットWebページ検索 ―平和記念資料館Webページほか 社会科、その他の資料集を調べる	
3、広島を想う	交流	コンピュータの操作方法や新しい情報を交換しながらまとめていく	
	EditTable	EditTableの「はっとくパレット」「なっとくボード」で調べたことを整理し、自分の考えをつくる。	EditTableで情報を整理する



Ⅱ　世界の子どもたちの現実

世界各地で地域紛争や戦争が繰り返されている現実に目を向け、困難な状況に追い込まれたり、兵士になって戦ったりしている子どもたちがいる世界の現状について考える。

学習過程	学習活動	主な内容	備考
1、テーマをつくる	写真集を見る	第二次大戦後の世界の紛争や戦争の様子を伝える写真集などの資料（十数点）	気になる写真やデーターに付箋を貼る →後にカード化
	VTR	「世界がもし100人の村だったら」 （TBS　6月21日放送分から） ―少年が兵士になる―	ワークシートに感想や考えを書く
2、調べる・学ぶ	Web検索	世界の子どもたちの現実を伝える資料（写真やデータ）を探す。 インターネットWebページ検索 googleのイメージ検索の使い方を知る	子どもたちのプラス面・マイナス面を伝える写真を必ず見つける。 日本との関わりにも注意。
	資料検索	社会科、その他の資料集を調べる	
3、世界を想う	EditTable	EditTableの「はっとくパレット」「なっとくボード」で調べたことを整理し、自分の考えをつくる。	EditTableで情報を整理する
	交流	プラス面・マイナス面の写真を比べたり、紛争や貧困の原因など調べたりしたことから考えたことを発表し、友達の考えを知る。	

Ⅲ　わたしにできること（3学期）

国際社会において紛争に巻き込まれた人々の救済や自立支援のために活動している人たちのことを知り、自分に何ができるか考え、実際にできることをやってみる。

学習過程	学習活動	主な内容	備考
1、テーマをつくる　2/9（月）	VTR	NGOの方から 「サワディープロジェクト」（タイ） 「CALOの会」（ペルー）の方にゲストティーチャーとして来てもらってその国の様子やその国に対する取り組みに学ぶ	EditTableを使って情報をカード化して蓄える
2、調べる・学ぶ	Web検索	Web・資料からどのような国際ボランティアが行われているのだろうか調べる。インターネットWebページ検索	
	資料検索	社会科、その他の資料集を調べる	
3、私の想い	EditTable	EditTableの「はっとくパレット」「なっとくボード」で調べたことを整理し、自分の考えをつくる。	EditTableで情報を整理する

タバコのケムリが、ぷかり、ぷかり……

かわのひでただ

秋の陽が、ゆっくりと西の空にあります。赤い実をつけたカキの木では、小鳥たちが実をつついて、さわいでいます。そのカキの木の下を、実にまけないくらいほっぺを赤くした、みどり色セーターのチエちゃんが、パタパタパタとかけてきました。もう学校が終わったんだぁ。

チエちゃんは、お家のドアをバターンとあけると、

「ただいまーぁ。」

と、声と赤いランドセルをほっぽって、うらにわにおおいそぎ。うらにわには、チエちゃんのパタパタパタを聞きつけた、大スキな、イヌの花ちゃんが、シッポをチエちゃんいじょうにパタパタさせてまっています。毎日、学校から帰ると、チエちゃんと花ちゃんのおさんぽのはじまりです。

花ちゃんに、おさんぽ用のクサリをつけると、花ちゃんは、もう大よろこびです。チエちゃんをグングンひっぱって、いつものおさんぽ道にとび出します。

いつもの道は、あまり自動車の通らない、サクラなみ木のさか道。長〜いかげと、あかるい陽ざしのパッチワークもようのなかを、花ちゃんは、フッフ、フッフとすすみます。さか道は、電車の駅に行くのに近道で、朝や夕方にはたくさんのひとが通ります。でも今は、チエちゃんと花ちゃんと、きもちのいい秋の風が通るだけ。

いつものさか道を、いつものようにおさんぽ。そして、いつものように花ちゃんは、大きなたてものの前で、シッポをパタパタさせるのです。たてものの前の小さな広場には、いつものように、なん人かのおねえさん、おにいさんが笑いながら、大きなはいざらをかこんで、お話をしています。みんな、ぷかり、ぷかりとタバコのケムリ。

花ちゃんのシッポパタパタと、チエちゃんの

「コンニチワー。」

を聞くと、そのひとたちは、いつものように、

「ハイ、こんにちは。花ちゃんは、今日も元気だね。ハイ、いつものクッキーだよ。」

と、花ちゃんにクッキーをひとつくれます。花ちゃんは、それがお目あてらしいのです。花ちゃんのシッポがパタパタ、タバコのケムリが、ぷかり、ぷかり。

「じゃあね、また明日。」

と、チエちゃんと花ちゃんは、フッフ、フッフと、さか道をくだります。サクラの木のかげが、だいぶ長くなりました。

それから五回、チエちゃんと花ちゃんが、パタパタ、フッフ、フッフした頃、いつものように、大きなたてものの前を通ると、いつもいるひとたちが、だ〜れもいません。小さな広場には、カラになった大きなはいざらが、ポツンとあるだけです。花ちゃんもふしぎそうに、シッポをパタパタさせるばかり。

そんな日のつづいた、ある夜。チエちゃんは、だ〜れもいなくなった大きなたてもののことを、お母さんに聞いてみました。

「いつもいた、おねえさんや、おにいさんたちがいなくなっちゃったの。」

と。すると、お母さんは、

「ああ、あそこのことね。あの大きなたてものは、こころがうまくふくらまないで、こまっているひとたちが、あつまっていたところなの。で、そうだんしたり、こまっていることをなくしたりするところだったのよ。お母さんのお知り合いのひとも通っていたんだよ。でも、こころがうまくふくらまないってことは、なかなか、まわりのひとたちには分からなくてね。なんだかヘンなひとたちばかりだって、ごきんじょのひとたちから、くじょうが出てね。それで引っ越しさせられちゃったのよ。みんな同じこのまちのひとたちなのにねぇ。」

と、少しかなしそうに、チエちゃんに教えてくれました。チエちゃんは、

「あそこのひとたちは、ちっともヘンじゃないよ。だって、わたしと同じように笑ったり、話したり、クッキーを食べたりしてるよ。花ちゃんだって、大スキなひとたちなんだもん。こころって分んないよ。」

と、いいましたが、お母さんは、遠くの方を見るようにして、うなずくばかりでした。

それでも、チエちゃんと花ちゃんは、おさんぽのたびに、だ〜れもいなくなった大きなたてものの前を通ると、やっぱり立ちどまって、小さな広場をのぞきこむのです。

「だれか帰ってきていないかなぁ。」

と。花ちゃんも、ひとまち顔でシッポをパタパタさせるのですが、カラのはいざらがあるばかりです。

そして、チエちゃんは、

「あんなにやさしいひとたちだったのに、どうして、みんなで引っ越しさせちゃったのかなぁ。あのひとたちも、引っ越しさせちゃったひとたちも、わたしも、花ちゃんも、みんなこのまちでいっしょにいるんじゃないの。おとなのひとたちって、ナニ考えてんだか分かんない。花ちゃんだって、さびしがってるんだからね。」

と、つぶやくのです。

チエちゃんのこころが、冬が近い空に、あのひとたちのタバコのケムリのように、ぷかり、ぷかりとうかんで、流れていくばかりです。

みんなではなしあうヒント

- ●花ちゃんとチエちゃんは、どうして、おねえさんや、おにいさんたちがスキなんだろう。
- ●お母さんは、なぜ、かなしそうなのかなぁ。
- ●どうして、おねえさんやおにいさんたちは、引っ越しさせられたのかな。
- ●おねえさんやおにいさんたちは、引っ越ししたかったのかな。
- ●あなたのすんでいるまちで、こんなことがあったら、あなたはどうしますか。
- ●あなたは、あなたのまちの、どんなところがスキですか。
- ●あなたは、「精神障害」という言葉を知っていますか。

ゆうからきいて！に応えて

「はじけるこころ」第6号の「フレンズ」訪問&インタビュー」に対して、不登校経験のあるお子さんの保護者の方（8名）にアンケートで応えて頂きました。

アンケートに応えていただいた保護者のほとんどの方が、「フレンズ」（「行けるなら学校に行きたいけれど、今は…」という小・中学生のための教室）の事をご存じでした。しかし、「フレンズ」の行き帰りに顔見知りの人と出会うかもしれない、雰囲気になじめそうにないなどの理由で、実際に通ったことのあるお子さんは少数でした。

学校に行（け）かなかった時期としては、中学時（5名）が最も多く、行（け）かなくなった理由として、いじめ、転校、先生の言葉・友だちの行動、先生・友だち・親などとの関係があげられていました。中には、理由がはっきりしていないという回答（3名）もありました。

進学・進級・転校等や期間をおいたことがきっかけで学校に行くようになったお子さんもいれば、高校には在籍しているが今は家にいる、学校に戻らなかったが現在は働いているなど、お子さん一人ひとりの状況がさまざまであることが分かりました。

お子さんが不登校となり、保護者の方が思い、悩み、考えた事がアンケートには綴られていました。それぞれの状況はさまざまですが共通点や参考になることをたくさん見い出すことができました。それらをまとめたものが以下に上げたものです。

あって良かったサポート、必要なサポートとは？

*毎日、友達が連絡物を届けにきてくれたり、遊んでくれたりがとてもありがたかった。

*先生からこまめに連絡をいただいたり、カウンセリングを受けたり、相談出来たこと。

*いろいろな立場の人が、子どものことを考えて行動してくれた事。

*子どもが学校に行っていない事を気にせずに話のできる人が、私にとってはとても大きな・大きなささえだった。

*肩の力をぬいて、心をひらいて話のできる場所があると、とてもうれしく頼りになった。

*教師からの情報提供、親とのコミュニケーションをとること。（親が変われば子どもも変わる）

*子どもが集う場所だけでなく、親が集まる場所。義務教育を終えたあとでもひきつづき相談できる公的な場所。（私的なところは費用が高い）

不必要又は迷惑なサポートとは？

*学校へ行かなくてはならないと思い込んでいるようなサポート（と思っている事）

*興味本位だけで話をきかないでほしい。（親子できずつく）

*教師のあまりにも無神経なことば・態度

*先生や生徒が家に来る事(子どもによっていろいろだと思うが)

保護者として、伝えたいこと

*子どもと今までとは違った会話ができた。不登校はマイナスではない。

*学校に行かないというのは、こちらが何かわるいことをしている気がして何かお願いをする時も、時間や労力をわが子のためにしてもらうのに、とても気がひけた。ちょっと視野をひろくすると、学校へ行くということは、いろいろな方法があり、どんな方法であっても胸をはってその生き方ができるように、子育てをしていきたい。今も手さぐりでいろいろな方法を捜している。

*中学校・フレンズ・その他いろいろな場所・たくさんの人達におせわになったおかげで、今の子ども達・私たち家族があると少しだけ胸をはれる気がする。今もわが家はゆっくり・ゆっくりの前進！

*自分の子が不登校になると、親子とも孤独感に陥った。その時はつらく悲しかったが、このことによって、自分たち親子に足りなかったこともわかったし、助けて頂いた人のありがたさ、やさしさが自分たちを成長させてくれたと思う。これもこの子にとっては一生の中で経験したことと受け入れていけるようになった。ただ集団生活の少ないなか、社会性というものは育っていないかもしれないという心配はある。

*学校に行ける行けないでなく、こどもには限りない可能性があって、親や教師のことばかけひとつで、その芽をつんでしまうことがあるということ。もっと謙虚な気持ちで、付き合っていけたらと思う。

*形式的な教師の家庭訪問ではなく、その子が何故行けないのかを、またどうしたいのか等を、保護者と学校と本人とで、ていねいに時間をかけて話し合うことが大切だと思う。すぐに行けるようにならなくてもその中から何か糸口が見つかるのではないかと思う。

*子どもへのサポートも大切ですが、親がどう子どもの今の状況を理解するかだと思う。フレンズにはカウンセラーがいらっしゃるのでしょうか、学校へいけない人が学校でのカウンセリングは無理だと思う。学校復帰を目的とせず、将来を見る事が必要だと思う。将来に必要な学習が見つかればいいと考えている。

*学校へ行かないこと、行かなければいけないこと、分かっていても行けないこと、すべて自分でわかっていたようで、今は明るくよく色々なことを話してくれる。仕事もしていて、年配の人といっしょに働いている。

*適応指導教室という名もよくないと思う。あなたは普通じゃないんだと言われているようです。（学校へ復帰することが、適応することなのでしょうか）

フレンズが「らいとぴあ21」だけでなく西や東にもあればいいと思う。道やらいとぴあで知人に合う可能性が高く、二中校区の人は行きにくいから。不登校をする理由は人それぞれちがうでしょう、フレンズへいける人はまだいいほう、行けなくて家にこもる人は親も子どももっと辛い。

*親がまず受け入れることが大事、一人一人の親がそれぞれ悩んでいるので、同じような悩みを持つ親同志の話し合いがとても気持ちを楽にさせる。他人の言うことを気にせず、愛情を持って子どもに接していく。出来るだけ映画や本屋、外食などに連れて行く。（外に出ることです）

親が見たり、聞いたりして知った情報を話す。（会話をする）新聞やテレビの話題も何でも話す。

フレンズにこられる子どもは、まだ元気な子たち。その子たちは自由に学習したり、スポーツなどを楽しんだらいいと思うが、それにも参加できない子も多いはず。場所もしくは時間を変えて、そういう子たちも参加できる居場所があればいいなと思う。そのためには現役の先生ではなく、退職された方、大学生、経験者の親など、ボランティアで手伝ってもらえればと思う。

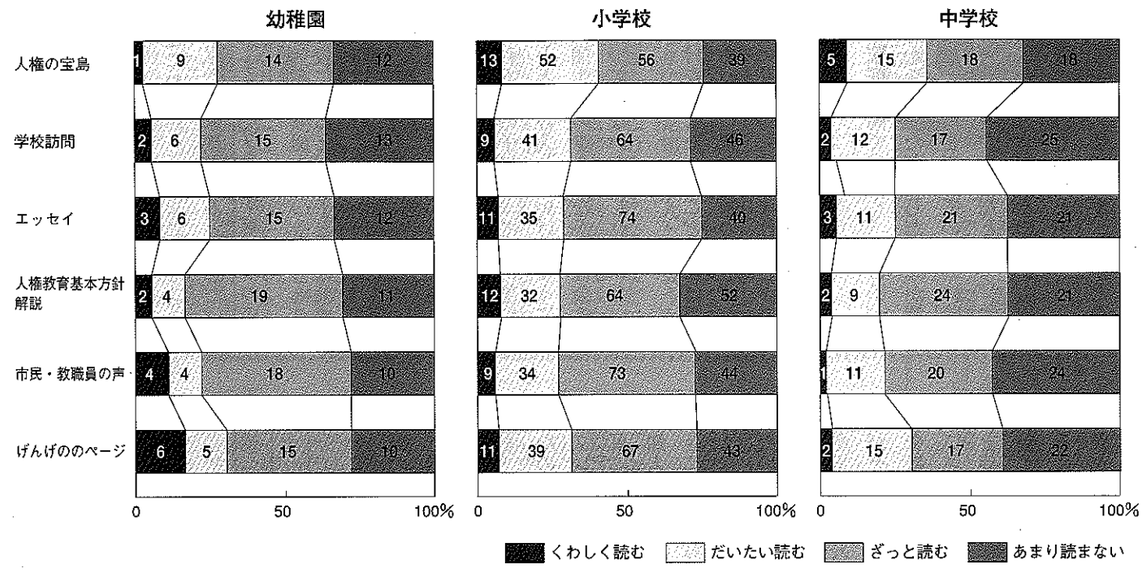
フレンズ

はじけるこころ

市内幼・小・中教職員に聞きました　アンケート集計結果

回収率　幼稚園97.2%　小学校50.62%　中学校27.8%

記事の中身は　くわしく・だいたい・ざっと　読んでいる　6〜7割



●記事を活用された方の意見

学級通信で、同世代の子どもの「つぶやき」として紹介し、班ノートの返事を期待したのですが、うまく反応が返って来ませんでした。（中学校）

●記事に対するリクエスト

- 人権に対する教職員の意識調査を小・中に分けて実施し、各校ごとに分けて結果を公表してほしい。（実態把握し、意識を高め、またその現実を市民にもわかってもらう必要あり）（中学校）
- 「子どもと出会わせたい」と思う人をどんどん紹介して欲しい。（勿論ご本人のＯＫをとってのことです。）そういった方の記事をお願いしたいです。（中学校）
- 他校の活動や総合での取り組み、子どもの生活に密着したもの等を記事にして欲しい。（小学校）
- 双方の人権が対立する場面を考える記事など教育活動に利用するとおもしろいのではないでしょうか。例えば、よく言われるところの犯罪事件における「加害者の人権」と「被害者の人権」とか。（小学校）
- 取り組みの裏話や具体的な実践例、準備に手間がかからず生徒の興味を引く活動等を紹介して欲しいです。（中学校）

●印象に残ったこと感想など

- 子どもたちの写真の表情がいいですね。（小学校）
- 記事を読みやすくするための工夫が、ＰＴＡ新聞の参考になります。（幼稚園）
- 今後も身近な問題をとらえ、しっかりと情報提供をよろしくお願いします。（中学校）
- プリントが多い中、じっくり読む時間がありません。すみません。（中学校）
- どのような意図で作られているのか、このアンケートで知りました。今後気をつけて読みたいと思います。（小学校）
- 忙しくて読む時間がありません。２分ぐらいで読めるようなものを。（小学校）
- どんどん発信することが、大切と思います。がんばって下さい。楽しみにしています。（小学校）
- 毎回読ませていただいています。鍋島先生のコーナーはわかりやすく書かれていて基本方針が身近に感じられてよいのですが、「おサルでもわかる」というのはどうかと思います。（小学校）

なべちゃんのおサルでもわかる『人権教育基本方針』

「おサルでもわかる」人権教育とは？

本誌の読者アンケートで、人権について語るのに「おサルでもわかる」という表現はふさわしくないのではないかというご意見がありました。連載の最初からこうしたご意見をお待ちしておりました。人権感覚の鋭敏な読者に感謝いたします。

「おサルでもわかる」という言葉を使うのは、読者を「サル扱いしている」ということとお感じなる方もおられると思います。それは、「誰でもわかる言葉で語る」ということを表現するために、しばしば「アホでもわかる」というような表現が使われ、これが知的障害者を指して差別することになるのではないかということが言われてきたからですね。中にはいまだに「女、子どもでもわかる」などと女性や子どもを「理解のない人」と決めつける人もおられます。たとえこれを「サル」に変えたとしても、なんらかの差別につながるのではと感じられるかたもいると思います。

そもそも「誰でもわかる」ということは、「難しい表現ではわからない人にもわかるようにする」ということを意味しています。だからたとえ「誰でもわかる」と言ったとしても、人間をなんらかの基準で「高い」「低い」とランク付けしていることにはかわりありません。問題は、「おんな、子ども」というように、特定の人々をさげすむ言葉を用いることです。

人権とは、法律という専門の世界で使われてきた言葉であって、憲法にせよ、世界人権宣言にせよ、たいへん難しいことばで書かれています。専門家でも理解に苦しむものもあります。しかしそれが多くの人々の手に届かないものである限り、人権は市民生活に活かされることはありません。この連載は、このような目的で、できるだけ日常のことばをつかって書く努力をしています。その時に私が心がけているのは、箕面の大切な住民ともいうべき箕面山のおさるさんたちにも人権を届けたいと思う気持ちです。そういう気持ちを読者のみなさまにも共有して頂ければありがたいと思っています。

ことばの裏側には、言っている本人が気づかない差別がひそんでいることがあります。しかしことばの工夫によってイメージをつくる力も大切にしたいと思います。そういうわけで、ぜひとも「おサルでもわかる」を今後も使わせていただきたいと思っています。もちろん、多くの方が不愉快というのであれば、すぐに変えたいと思います。いかがでしょうか。また皆さんからの意見をお待ちしております。おさるさんたちから見れば、「サルをばかにするな！」ということかもしれませんね。おさるさんたちの気持ちも、聞かないとね。うーん、やっぱり次号から「誰でもわかる」にしようかなあ。強気にはじめて、弱気になっている鍋島でした。

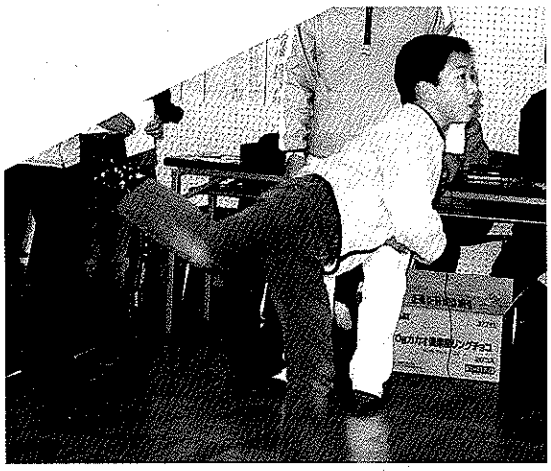
（鍋島祥郎なべしまよしろう 大阪市立大学人権問題研究センター助教授）

人権教育推進会議情報誌『はじける　こころ』
発行　箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会
教育企画課　TEL072-724-6762 FAX072-724-6010
e-mail:edukikaku@maple.city.minoh.lg.jp
平成16年（2004年）３月

人権教育推進会議委員
鍋島祥郎、服部ひとみ、埋橋淑子、平沢清美、河野秀忠、丸岡康一、永田よう子、山口ひとみ、鷲見孝子、高桂子、山下延治、西岡貴子、中田和成、青木修一、山田佳彦、寺元耕二、川上加津子、鶴丸春吉、仲野公、藤原秀子、上西利之、井上隆志、中野仁司、赤川隆洋、南橋正博、南悦司、津田善寿、石田宇佐美、前田功、辻広志、中井正美、谷口あや子、藤野美代子、坂上潔司

げんげのページ

げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



写真募集！
子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。